お茶の水女子大学
Ochanomizu University

グローバルリーダーシップ研究所
Institute for Global Leadership (IGL)
ニューズレター　第20号　令和3年3月
Newsletter Vol.20, March 2021

・Ocha-IGL Award 2020 授賞式
・福井県「未来きらりプログラム」との連携
・リーダーシップ教育効果測定アンケート実施報告（後期分）
・日韓3女子大学交流合同シンポジウムオンライン大会
・第2回国際日本学講演会
・国際シンポジウム「女性リーダーがSDGsに向けて果たす役割ーアジアの市民社会と国際教育から」
・第3回IGLオンラインセミナー「政治と平和に関する意思決定過程におけるミャンマー女性の役割」
・オンラインワークショップ“Why did Japan have to change ‘202030’ to ‘203030’?”
・未来起点フォーラム
・サマープログラム
　○特別講演会 1 “Women, Power and Leadership in Islam”
　○特別講演会 2 “Women’s Employment and Men’s Domestic Work in Contemporary Japan”
・後期グローバルリーダーシップ研究所関連授業報告
・子育て中の女性研究者に対する研究補助者支援事業：2020年度成果報告会
・2020年度みがかずば研究員交流会
・徽音塾（社会人女性向け講座）
・2021年度グローバルリーダーシップ研究所関連授業
・研究所から

Ocha-IGL Award 2020＜英語によるエッセイコンテスト＞授賞式（2021年2月5日）

［オンライン授賞式］

Ocha-IGL Award 2020授賞式を2月5日（金）にオンラインにて開催しました。

Ocha-IGL Award 2020は、リーダーシップ／リーダーについての理解を深めるために創設された英語によるエッセイコンテストです。2020年11月18日に本学でご講演いただいたミュンヘン工科大学副学長クラウディア・ポイス教授が本学の学生のリーダーシップ教育にと講師謝礼を辞退されたため、先生のご厚意を契機として企画されました。

2020年度12月までに開催したIGL（グローバルリーダーシップ研究所）のオンラインセミナー、シンポジウムに参加した本学学生（学部生、院生）を対象として「IGL セミナーにおいてリーダーシップ／リーダーについてどのような学びが得られたか、その学びを今後どのように活かしていきたいか」について英語によるエッセイを募りました。10名の応募があり、厳正な審査の結果、6名に賞が贈呈されることとなりました。

授賞式では佐々木泰子グローバルリーダーシップ研究所研究所長から「応募者のエッセイからお茶大生の前向きな姿勢が感じられ嬉しく思う。今後も海外と連携したセミナーへの積極的な参加を期待する。」という挨拶があり、賞状、副賞の授与につづき、審査員4名（小林誠副所長、本林響子副所長、岡村利恵特任講師、松田デレク講師）からの講評が行われました。最後に、受賞者一人ひとりからコメントが述べられ、オンラインによる対話を通じて和やかな授賞式となりました。

IGLでは今後もIGL Awardを継続して開催する予定です。リーダーシップに関するオンラインセミナー、シンポジウムへの参加を学生に呼びかけ、IGL Awardへの応募を通じて英語で自分の意見を発信する機会を設けます。

文責：Ocha-IGL Award事務局
（長塚尚子：アソシエイトフェロー
林有維：特任アソシエイトフェロー
本橋直美：企画戦略課 男女共同参画担当 副課長）

福井県「未来きらりプログラム」との連携

お茶の水女子大学と福井県は2012年1月21日に女性リーダー育成のための相互協力協定を締結しました。これに基づき、本学は福井県による県内社会人女性のキャリアアップを目的とした研修プログラム「未来きらりプログラム」の策定・実施に参画しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開講時期が例年より遅くなりましたが、6月26日に開催された「未来きらりプログラム」開講式では、佐々木泰子理事・副学長／グローバルリーダーシップ研究所長が挨拶を行い、大風薫学生・キャリア支援センター准教授が「キャリアデザイン」の講義を行いました。

例年のように「未来きらりプログラム」の受講生が本学に来学し、「お茶の水女子大学論」や「女性のキャリアと経済」を聴講したり、本学学生と交流会を行ったりすることは叶いませんでしたが、11月3日、10日及び12月1日には「女性のキャリアと経済」をオンラインにて聴講し、11月10日の講義後には、講師とオンラインにて懇談会を行い、働き続けることの苦労、楽しさなどを話し合い、講師からアドバイスをいただきました。11月10日の受講者は20名と例年より多く、これは家庭と仕事を両立し、多くの時間を確保することが難しい女性たちでも時間を気にせず参加することができるオンラインならではの利点だったのではないかと思います。

3月24日にはオンラインによる修了式が予定されており、小林誠副所長が今年度の「未来きらりプログラム」の講評を行います。

2019年度から行っている福井県の女性の生活の質の向上に向けた共同研究も進んでおり、今後益々の連携強化が期待されます。

文責：本橋直美
（企画戦略課 男女共同参画担当 副課長）

［開講式の様子］

リーダーシップ教育効果測定アンケート実施報告（後期分）

IGLは、キャリアデザインプログラム（CDP）基幹科目13科目のうちリーダーシップ養成科目として6科目を提供・担当しています。2020年度前期に引き続き、後期授業「ファシリテーション」と「女性のキャリアと経済（旧 女性リーダーへの道 ロールモデル入門編）」の2科目において「リーダーシップ開発チェックリスト」を用いた授業効果測定を行いました。2科目の受講者数、回答者数、回答割合は表1の通りです。調査は授業開始時（2020年10月末）と授業終了時（2021年1月中旬）に実施しました。

また、本学オリジナルの「コンピテンシーチェックプログラム（CCP）」においてリーダーシップ特性（25項目）の評価を1年生458名、3年生384名の計842名に実施しました。調査結果は学年ごと、学部ごとに分析し、本学の学生におけるリーダーシップ特性の特徴についても明らかにしました。

分析結果はコンピテンシーチェックプログラム結果閲覧サイト（https://crdeg4.cf.ocha.ac.jp/ccpr/index.php）に掲載し、リーダーシップ特性は、肯定的な評価であれば「優れている」と評価されるものではなく、自分がどのような特性を持っているのかを「知る」こと、それをどう生かすか「考えること」が大切であることを添えて、回答者にフィードバックしました。

次年度も引き続き、リーダーシップ養成科目の効果をはかるリーダーシップ開発チェックリストを用いた調査、本学の学生におけるリーダーシップ特性をはかるCCPを用いた調査を実施します。

文責：内藤章江
（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）

表1　2020年度　後期授業におけるリーダーシップ教育効果測定アンケート回答者数

調査対象授業	受講者数	授業開始時		授業終了時	
		回答者数	回答割合	回答者数	回答割合
ファシリテーション	16	14	87.5%	10	62.5%
女性のキャリアと経済	70	25	35.7%	22	31.4%
合計	86	39	45.3%	32	37.2%

*授業終了時の回答者数は2021年2月1日までに回答した人数を示している。

日韓３女子大学交流合同シンポジウムオンライン大会（2020年12月11日）

日韓３女子大学交流合同シンポジウムは、国際的なリーダーとなるべき人材の育成の一環として、梨花女子大学校（韓国)と日本女子大学、そしてお茶の水女子大学の日韓３女子大学が協力して開催している理系学生の研究交流合同シンポジウムです。昨年度第10回の記念シンポジウムを開催し、今年度から新たな章が始まりました。

昨年度の話し合いで、第11回は9月にソウルで開催することが決まりましたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症のため、いったんは中止することになりました。しかし、教員間の話し合いで継続することの重要性が再認識され、オンラインで12月11日に開催することになりました。

急な開催決定であったため、参加者の募集が短期間になってしまったことは心苦しかったのですが、それにもかかわらず、お茶の水女子大学からは5件の学生発表と1件の教員発表ができました。全体では10件の学生口頭発表と2件の教員口頭発表があり、例年のシンポジウムと比較すると規模はかなり小さくなってしまいましたが、それでも学生のみなさんが、研究内容を発表できたことの意義は大きかったと思います。

初めてのオンライン開催であったことから、その開催方法や形式についていろいろと話し合い、お茶大では国際交流留学生プラザ3階のセミナー室にスタジオを設営して、発表者はスタジオで発表する形式をとりました。

参加者からは、「梨花女子大学生の英語力には驚かされました。普段の研究活動の段階から英語でディスカッションを行なっているであろうことが容易に想像できました。」「今後国際的に活躍していくには、専門知識に限らない英語力を身に付けなければならないと痛感しました。」などの感想をもらいました。

文責：由良敬
（基幹研究院 自然科学系 教授）

［梨花女子大学校側から撮影されたシンポジウム開催風景］

第2回国際日本学講演会（2020年12月12日）

2020年12月12日（土）に比較日本学教育研究部門が主催する第2回国際日本学講演会が開催されました。

今回は、上海大学の張智慧先生とオンラインで結び「戦前上海における日本人居留民社会に関する研究」についてご講演いただき、コメントを本学卒業生の東洋大学渡辺千尋先生にお願いしました。

張先生は、居留民社会の救済事業（非常時）と住宅難問題（平時）に目をむけ、上海日本人居留民の生活の実態をご報告されました。渡辺先生によるコメントでは、日本史分野の居留民研究と上海都市史における居留民研究の関係性や違い、研究の関連性に関するご指摘がなされました。張先生のご専門である都市史においては、生活の場である「街」に着目し、「街」がどのように作り上げられていくかの過程に着目する点が紹介されました。

ご講演は、上海の共同租界の中で日本人居留民たちが自らの「街」、すなわち中国の中の日本人社会＝空間を作り上げて行く過程を生活の根幹である住宅や生活の問題からあざやかに描き出すものであり、空間に着目することの意義を確認する内容で構成されるものでした。

当日は、専門性の高い分野にもかかわらず約30名の学生および教職員が参加し、ご講演とコメントの後も白熱した議論が展開されました。

文責：神田由築
（グローバルリーダーシップ研究所
比較日本学教育研究部門長）

国際シンポジウム（2020年12月19日）
「女性リーダーがSDGsに向けて果たす役割－アジアの市民社会と国際教育から」
“Women’s Leadership and its Role for SDGS: Approaches from Asian Civil Society”

12月19日（土）にIGL国際シンポジウム「女性リーダーがSDGsに向けて果たす役割 ―アジアの市民社会と国際教育から」（Women’s Leadership and its Role for SDGs: Approaches from Asian Civil Society）をオンラインで開催しました。参加者は学内関係者を含め116名で、登壇者の関係者を中心に海外からの参加者も目立ちました。

登壇者はサイアム大学（タイ）副学長のチャニタ・ラックポラムアン氏、フィリピン大学セブ校副学長・同大准教授のウィーナ・ヘラ氏、当研究所副所長・同大教授の小林誠氏の3名で、コメンテーターを梨花女子大学校名誉教授の趙成南氏、司会を当研究所特任講師の岡村利恵が務めました。

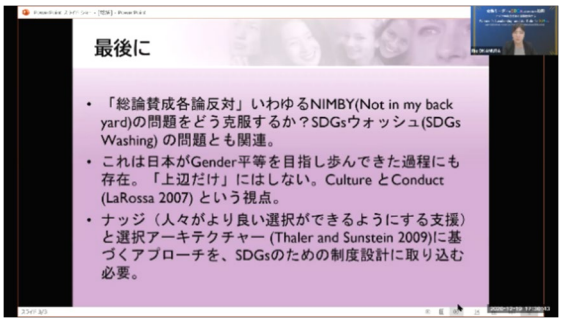
ラックポラムアン氏は発表の前半部分でタイでのSDGsの達成状況について概観し、タイのジェンダーギャップ指数の状況も交えて、SDGsの全てのゴール達成にはジェンダー平等（ゴール5）の実現が欠かせないことを強調しました。タイでは民間企業の役員等については女性の参画が進んでいるが、政治分野における女性の参画は遅れているとし、また都市部と農村部では異なる状況が存在していることに目を向ける必要があると指摘しました。

［質疑応答の様子］

ヘラ氏は、持続可能な開発のためには技術的な発展という側面だけではなく、グッド・ガヴァナンスが存在しているかという点が非常に重要であるとし、公平・平等・幸福・分かち合いによる人類の利益ということを考える上で、気候変動等によって不利益を被りやすい女性が意思決定プロセスに参加できるようにするための投資が欠かせないという点を強調しました。

最後に登壇した小林氏は女性の非正規雇用比率が近年増加傾向であることをデータで示しながら、女性活躍推進法のターゲット外部が拡大していることについて問題提起を行い、日本の女性リーダーシップが構想される文脈として、個人化、労働化、階層化、懲罰化という流れが存在するのではないかということを問いかけました。

［シンポジウム英文ポスター＊］



［シンポジウムまとめ］

これらの発表についてコメンテーターの趙氏は、いかなる分野であっても次の世代を想定した女性リーダーシップモデルを構想する重要性があるとし、ICT技術の発展やコロナ禍という社会変動に対応できるリーダーシップスキルとは何か、またそしてそれらを高等教育でいかに涵養できるのかということについて問題提起しました。質疑応答でも学生を中心に質問が相次ぎ、活気に満ちたシンポジウムとなりました。

文責：岡村利恵
（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）

＊ZoomはZoom Video Communications, Incの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

第3回IGLオンラインセミナー（2021年1月29日）
「政治と平和に関する意思決定過程におけるミャンマー女性の役割」
“Role of Myanmar’s Women in Political and Peace- Related Decision-Making Process”

1月29日(金）にミャンマーのヤンゴン大学国際関係学部のルイン・チョウ・ラッ准教授を迎えて、オンラインによる国際セミナーが開催されました。

ミャンマーでは50年以上にわたる長い軍事政権を経て民生移管が行われ、2016年からはアウンサンスーチーを事実上の元首に置く文民政権が成立しました。

厳しい状況の中でミャンマーの女性は政治や平和構築にどのような役割を果たし、どのようなリーダーシップを獲得しつつあるのか、国内の平和構築の政治決定過程について調査研究をしているルイン・チョウ・ラッ准教授のお話を伺いました。

講演の冒頭では、ミャンマーの歴史、地理、人口などの基本的な事柄について説明があり、その後にミャンマーの政治体制の変遷、ミャンマー女性の社会参画の状況、平和構築に向けた政策決定過程における情勢の進出や女性の代表制について講演されました。

それらを受け、大木当研究所特任講師は、日本とミャンマーはアジア諸国でも女性参政権の成立が早かったにもかかわらず、ジェンダーギャップ指数では低位にあることを指摘し、政治的代表制の枠組みから、女性の政治リーダーの不在やその要因解明、女性の政治参画の推進に向けた取組などについて論点が提示されました。使用言語は英語でしたが、日英逐語訳により、学生の理解も深まりました。最後には、参加学生からの質問があり、盛会の内に本セミナーを終えました。

文責：大木直子
（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）

編集部注：本セミナー開催３日後の2月1日にミャンマーでは、ミャンマー国軍によるクーデターが起こり、それに対して抗議のデモが行われるなど、現在国内情勢が不透明な状態となっています。

オンラインワークショップ（2021年3月9日）
“Why did Japan have to change ‘202030’ to ‘203030’?”

日本のジェンダー・ギャップ指数は、153カ国中121位（2019年12月時点）とＧ７で最低であり、とりわけ政治・経済分野におけるリーダー層の男女格差の解消が急務となっています。グローバル女性リーダーシップに関する学際的研究プロジェクト “Redefining Global Women’s Leadership Project”では、政治・経済分野のジェンダー平等の達成に向けた、女性リーダー育成に必要な制度・政策デザインを検討しており、今年度は2021年3月9日（火）にオンライン・ワークショップ “Why did Japan have to change ‘202030’ to ‘203030’?”を開催しました。

本ワークショップでは、プロジェクトメンバーの4名の発表者が女性団体や労働組合、若者中心の市民団体を事例に、政治、経済分野のリーダーシップに関する調査研究を発表し、共に前グローバルリーダーシップ研究所特別招聘教授であるドイツのカレン・シャイア教授とアネッテ・シャート＝ザイフェルト教授がそれぞれコメンテーターを務めました。

“How Women Become Candidates in Local Elections in Japan”（大木IGL特任講師）、“The Conditions for Developing Women’s Union Leadership in Japan”（金客員研究員と金井教授）、“The Conditions for Developing Women’s Union Leadership in Japan”（浜田特任研究員）の3報告の後、2名のコメンテーターからは、日本のジェンダー平等推進が遅れている要因について、制度的要因の分析や女性リーダーの現状を取り巻く環境や社会構造の考察などの論点が示されました。最後には参加者からの質問もあり、盛会のうちに本セミナーを終えました。

文責：大木直子
（グローバルリーダーシップ研究所
特任講師）

注：’202030’：第3次男女共同参画基本計画にて示された政府目標。「社会のあらゆる分野において、2020 年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも 30％程度になるよう期待する」という目標が、平成 15 （2003）年 6 月 20 日男女共同参画推進本部にて決定された。（https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/3rd/pdf/3-03.pdf）

未来起点フォーラム（2021年1月21日）

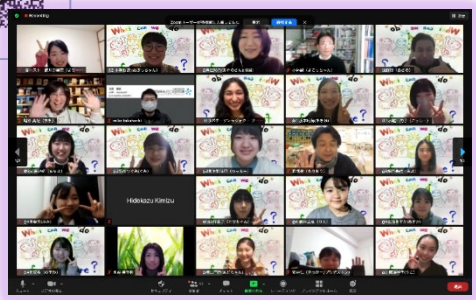
株式会社ブリヂストンと本学の社会連携講座2020年度「未来起点ゼミ」は、学生の1年間の学びの集大成として、2021年1月21日（木）に「未来起点フォーラム」をオンラインで開催しました。当日は学内、学外合わせて66名が参加しました。

今回の「未来起点フォーラム」は司会、全体挨拶、進行、クロージングを含め、全て学生が担当しました。本番では、4つのブレイクアウトルームに分かれ、参加者は発表のタイムスケジュールを見て、各自で聞きたいテーマを選択してブレイクアウトルームに入りました。それぞれの発表後、また聞きたいテーマにより別のブレイクアウトルームへ移動することも可能としました。

発表時、緊張している学生や、発表が長くなり質疑応答の時間が短くなってしまう学生もいましたが、1年間考えてきた成果もあり、落ち着いた様子で自分の言葉で説明していました。参加者はビデオオンで参加した方が多く、チャット機能を使って、コメントや感想や質問などを書き込んでいました。学生もそれらにうまく対応し、各自の発表時間内に終了しました。発表内容は教育、食、スポーツ、ファッション、情報社会、文学、動物愛護など多岐にわたり、参加者と活発な意見交換ができました。全体的に和やかな雰囲気と一体感がありました。

発表後の任意参加の交流会では、参加者が学生たちに質問したり、自分の感想を述べたり、また、アドバイスをしたりして、交流が盛り上がっていました。今回の「未来起点フォーラム」はオンライン開催でしたが、学生の入念な準備、また参加者の積極的な参加により、とても有意義な時間となりました。

文責：郭麗娟
（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）



サマープログラム（2021年2月6日～2月20日）

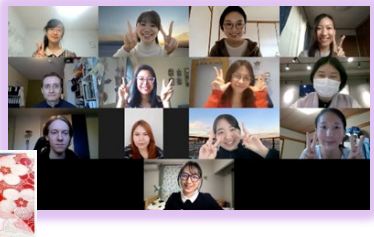
2021年2月6日（土）～2月20日（土）の2週間で、オンラインサマープログラム（Ocha Summer Program for Global Leaders）が開催されました。

2020年度は、東京オリンピックを見込んで、例年より時期をずらして2020年6月に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症流行の収束の見込みが立たなかったため、開催時期を翌年2月に延期し、更にオンラインでの開催となりました。

開催8年目となる「Course 1: Japanese Language Course」には、海外協定校生17名が参加しました。また、開催10年目となる「Course 2: Culture & Society Course (taught in English)」は、3学部（文教育学部、生活科学部、理学部）の3サブコースを2サブコースにした上で、日本色がより明確なプログラムに再編成して実施し、海外協定校生13名、本学からは14名が参加し、計27名の参加者数となりました。多国籍の学生がチームを組んでSDGsをテーマにした発表を行った「Project Work」は、海外協定校生13名、本学学生22名、計35名の参加となり、サマープログラム全体で13か国16校から参加者が集まりました。

また、プログラム期間中に、2つの特別講演会が開催されました。一つ目は、パリ大学特別教授Azadeh Kian氏による“Women, Power and Leadership in Islam”、二つ目は、本学名誉教授石井クンツ昌子氏による“Women’s Employment and Men’s Domestic Work in Contemporary Japan: Implications for Women’s Leadership”です。（詳細は次ページ参照）

オンラインでの交流ということも踏まえ、プログラム開始前の12月から本学学生と海外協定校生の学生同士の交流を開始しました。また、本学ボランティア学生によるサマープログラム運営委員会主催の日本文化紹介動画配信や、クイズ大会などの様々なオンライン交流会も実施され、好評のうちに幕を閉じました。



［学生交流イベント］

［日本文化紹介動画］

特別講演会１（第4回IGLオンラインセミナー）（2021年2月10日）
“Women, Power and Leadership in Islam”

【講演者】Azadeh Kian 教授 (パリ大学)
【モデレーター】中西久枝教授 (同志社大学)
【対象】本学学部生・大学院生・教職員
【日時】2 月 10 日（水）18:00~19:30
【開催方法】オンライン（Zoom）開催
【使用言語】英語
【参加者】60 名
【概要】

本講演では、中東におけるイスラムの歴史を 4 期（イスラムの発現、中世、近代、現代）に分け概観することを通して、女性が権力の獲得を模索してきたことや、宗教・経済・文化・政治などの面で、女性が権力を与えられてきた過程について学ぶことができました。

講演者のパリ大学 Azadeh Kian 教授はイラスラム圏におけるジェンダー研究で6つの著書、12の共著、そして120あまりの論文を発表しており、イスラムにおける女性の権力やリーダーシップについて研究する数少ないイラン出身の女性の研究者です。

同志社大学でイスラム圏のジェンダーを研究し、数多くの論文を発表している中西久枝教授をモデレーターとして迎え、イスラム圏のジェンダー研究について理解を深めました。質疑応答時には3名の参加者から質問があり、Kian 先生から丁寧な回答が得られました。後日のアンケートでは、9割以上の参加者が今回のセミナーでイスラム圏の女性教育や女性リーダーの知識を深めることができたと答えていました。

今回の講演会では、通訳を導入しないこともあり、参加者には事前に Kian 教授の論文を2本配布しており、講演会の内容がより理解しやすいように工夫しました。

学生からのコメントが多く寄せられ、参加者からは Kian 教授の丁寧な説明に感謝を述べるとともに、誤ったイスラム圏のイメージを拭う今回のような講演会をもっと開催してもらいたいとのコメントがありました。

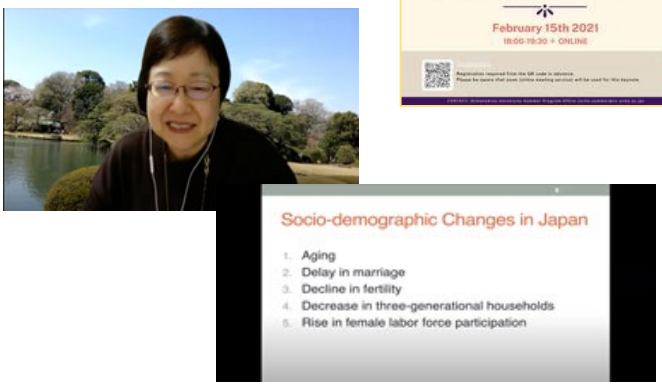
特別講演会２（第5回IGLオンラインセミナー）（2021年2月15日）
“Women’s Employment and Men’s Domestic Work in Contemporary Japan: Implications for Women’s Leadership”

【講演者】石井クンツ昌子名誉教授 (お茶の水女子大学)
【対象】本学学部生・大学院生・教職員
【日時】2 月 15 日（月） 18:00~19:30
【開催方法】オンライン（Zoom）開催
【使用言語】英語
【参加者数】38 名
【概要】

本講演では、3つの観点から現代日本におけるジェンダーの問題に関して学ぶことができました。はじめに、現代日本における女性の高齢化、少子化、女性の労働参加の増加などの社会的・人口動態の変化について説明がありました。次に、男性の育児・家事への関与が女性の就業とどのように関係しているかを明らかにし、最後に女性のリーダーシップと日本社会における男女平等の実現に向けての意味を考えました。

講演者の石井クンツ昌子教授は本学の名誉教授であり、日本や他国との比較の中でジェンダー研究に関する論文を数多く発表しています。石井クンツ教授には事前に回収した5つの質問に答えていただきました。また、最後に1名の学生から追加の質問があり、時間を過ぎても丁寧な回答が得られました。

後日のアンケートでは講演会への満足度は95%と非常に高く、日本の 現状を知る上では非常に有意義な講演会だとの回答がありました。自由記述の解答欄には多くのメッセージが寄せられ、石井クンツ教授の講義をもっと聞いてみたいとの声が多数ありました。



文責：松田デレク
（国際教育センター兼グローバルリーダーシップ研究所 講師）
長塚尚子（同 アソシエイトフェロー）

「ファシリテーション／女性リーダーへの道（実践入門編）」

本講座は、前期授業「パーソナル・ブランディング」において磨いた「個」を「チーム」で発揮するための授業です。授業では、企業から提示された課題をグループで解決するプロジェクトに取り組み、その問題解決のプロセスを通して、ファシリテーションスキルの向上を目指します。受講生は16名であり、授業はオンラインツール（Zoom）を用いて実施しました。

感想として「講義で学んだことをすぐに実践でき、毎回の振り返りが手厚かった。実際に企業で働く社員の方が発表を聞いてくださり、オンラインならではの工夫についても触れていた点が良かった。」、「とても充実した授業内容で、成長する機会が多く与えられていた点が印象に残っている。また、こまめにフィードバックをいただける機会は大学の授業ではそうないことであるが、この授業では先生に気軽にアドバイスを聞くことができる機会もあり、仮説を確信に変えて活動に向かえた点も充実した内容になった一因だと思う。正直もっと早く、大学生でなくて高校生の段階でも、この授業を受けたかったと強く思う。そのくらい実生活において大事なスキルを養うことができる授業だった。」などを得ました。

講義に対する満足度も高く（とても満足12名、満足4名）、ほとんどの受講生（15名/16名中）が本講義を「今後とても役に立つ」と回答していました。

文責：内藤章江
（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）

「グローバルリーダーシップ実習I・II」

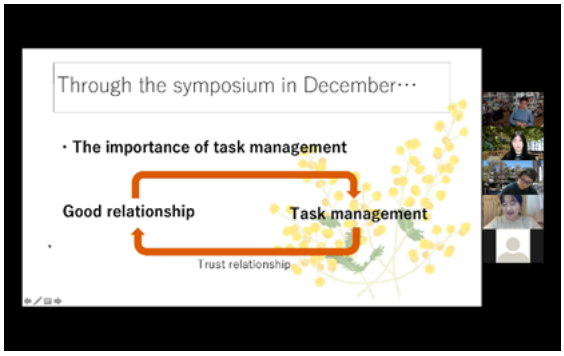
本授業は前期後期の通年で開講される授業で、後期にはイタリアのPavia大学の女子カレッジCollegio Nuovoでの研修を行う予定でしたが、今年度は残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響で研修を実施することが出来ませんでした。その分、企画運営から当日の発表までそのほとんどを学生が担う学生シンポジウムの開催に力を注ぎました。

シンポジウムの使用言語は英語とし、テーマは“Student Perspectives on Education and Gender Issues in Japan and Italy in the Context of Problems Posed by COVID-19”（邦題：日本とイタリアの学生が考える教育とジェンダー～COVID-19によって炙り出された身近な問題とは～）で、Collegio Nuovoの学生もオンラインで発表に参加しました。

学生シンポジウムの開催を通じて、学生はリーダーシップに欠かすことのできないソフトスキル（企画調整力・タイムマネジメント・ロジカルシンキング等）を実践から学びました。特に今年度はほとんどの授業がオンラインということもあり、履修生同士の関係性、いわゆるbondingが十分に深まったとはいえない状況で、企画の実現には困難が伴いました。そのため、学生の作業が可視化されるようにSlackやGoogle Driveを指導に導入するなど、教員側も新たな挑戦や試行錯誤の連続でした。開催直前まで面談やリハーサルを重ねた結果、学生シンポジウムでは司会進行や発表を落ち着いてこなす学生の姿を見ることができました。

しかし、学生シンポジウムの成功よりも重要なのはその後の振り返りであり、自分がどのような役割を果たしたのか、周囲を見渡してリーダーシップについて何が観察できたのか、どのような場面で困難を感じたのか等を整理する作業を重視し、リフレクションに十分な時間をかけました。

一連の学生の学びについては別途「グローバル女性リーダー育成のためのソフトスキルプログラム」として報告書を年度末に発行する予定ですので、ご一読頂けましたら幸いです。



文責：岡村利恵
（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）

「アカデミック女性リーダーへの道（実践編）」

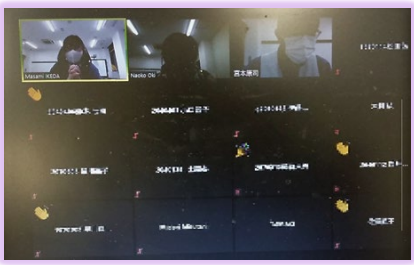
「アカデミック女性リーダーへの道（実践編）」は、研究者（女性リーダー）育成の一環として、2007年度から開講している大学院生（博士前期・後期課程）を対象とする授業です。2020年度は新型コロナウイルス感染症流行の影響により、全面オンライン（Zoomによる同時配信型授業）で実施しました。

本授業は、受講生による日本学術振興会特別研究員の申請書の作成実践、プレゼンテーション・スキル向上のための演習を通じて次年度の特別研究員の採用や研究費獲得を目指すものであり、ひいては、アカデミア領域でのリーダー人材の育成を目的としています。受講する学生が短期間でプレゼンテーション・スキルの内容を確実に理解し、自分の知識として定着してもらうために、2017年度より4日間で開講しています。

今年度の受講者はポスドク研究者や研究生などを含め計20名でした。オンライン授業であったため、遠方にいる学生も受講することができ、例年以上に活気のある授業となりました。受講生からは「研究室に学振経験者もおらず、研究者への道筋が見えづらい環境でしたので、このような経験者の話を聞かせていただける機会はとても貴重でありがたいです」、「これまでプレゼンテーションのための講義を受けたことがなかったのですが、本日の講義はとてもエッセンシャルな内容であると感じました」、「1人1人のプレゼンにフィードバックがいただけるのはかなり贅沢でした」、「プレゼンのコツなど、ちゃんとした説明を初めて受けたので、とてもためになりました」、「グループワークで、感想やアドバイスがもらえたことで、自分のプレゼンテーションの改善点がより明確になったように思います」といった感想が寄せられました。

文責：大木直子
（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）

	日付	授業内容
第1回	2021/1/25	講演会：本学教員や学振特別研究員の院生、ポスドクによる、申請の際の重要点についての講演（Zoomウェビナー）
第2回	2021/2/1	申請書類作成実習：申請書類案の作成実習、個別指導（Zoomミーティング）
第3回	2021/2/8	魅せるスタディ・プレゼンテーション（1）：自己紹介のプレゼンテーションおよびプレゼンテーション・スキルに関する講義（パワーポイント等使用）（Zoomミーティング）
第4回	2021/2/10	魅せるスタディ・プレゼンテーション（2）：自分の研究テーマに関するプレゼンテーション（パワーポイント等使用）（Zoomミーティング）



「ダイバーシティ論」

企業の取組について事例研究も行いながら、組織でダイバーシティを推し進めるにはどのような「仕組み」が有効なのかを学生と一緒に考えることを重視しています。この授業で学んだことをそれぞれの学生が今後所属する組織で活かしていってくれることを期待し授業を運営しています。

今年度は1回の対面授業を除いて授業は全てオンラインの形式をとりました。授業全体をふりかえると、少人数かつオンラインであるからこそできる授業の在り方を発見することができました。

例えば「ダイバーシティとその表象」というテーマを扱った回では、虹は本当に7色かということを考え、ことばや映像と人々の行為にはズレが生じているかもしれないという問題提起を行い、その後に社会的議論を巻き起こした女性活躍をテーマにした国内外の企業CMを学生に分析させました。画面共有などのオンライン機能を効果的使用することによって学生の知的探求心を刺激できたのではないかと思います。

今学期は教員も学生もお互いの存在を容易に認識できるクラス規模であり、授業初期にはややコミュニケーションにぎこちなさがあったものの、ディスカッションを重ねるごとに活発な議論が許容される場であるとの意識が学生にも芽生えていったように思います。

学生の最終課題の提出時には「皆さんの自由な議論を聞くことが出来とても楽しい講義でした」、「色々な角度から意見が出る議論は新鮮で楽しかったです」、「自由な空気で楽しんで受講できました」というコメントが添えられていました。

文責：岡村利恵
（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）

子育て中の女性研究者に対する研究補助者支援事業：2020年度成果報告会（2021年3月15日）

子育て中の女性研究者に対する研究補助者支援事業について、2020年度成果報告会を3月15日（月）にオンライン開催しました。この事業は2009年度から本学独自の事業として開始し、女性研究者研究活動支援事業として継続実施しています。

2020年度は5名の支援対象者が採択され、研究活動を支援する補助者が配置されました。成果報告会には研究補助者5名も出席しました。

支援対象者による支援事業による成果報告では、研究成果や生活の変化などについて説明がなされ、参加者から質問や感想が述べられました。最後に研究補助者も含めて活発な意見交換が行われ閉会しました。

IGLでは今後も支援事業を継続します。成果の詳細は「グローバルリーダーシップ研究所成果報告書」へ掲載する予定です。

（参考）
2020年度 子育て中の女性研究者に対する研究補助者支援の募集 (学内研究者向)
HP:https://www.ocha.ac.jp/news/kosodate2020.html

文責：内藤章江
（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）
林有維（同 特任アソシエイトフェロー）
本橋直美（企画戦略課 男女共同参画担当 副課長）

2020年度みがかずば研究員交流会（2021年3月17日）

2020年度みがかずば研究員交流会を3月17日（水）にオンライン開催しました。

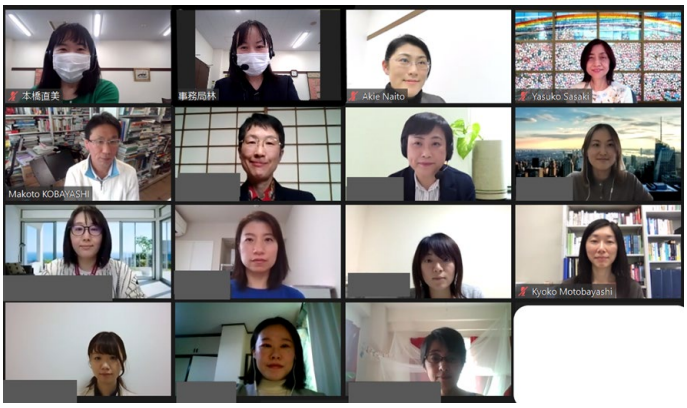
本学では2012年度より、すぐれた女性研究者の継続的な研究活動を支援するともに、女性研究者が研究中断後に円滑に研究現場に復帰する機会を提供するために、本学独自の特別研究員（呼称：みがかずば研究員）制度を導入しています。

交流会では、みがかずば研究員9名が自己紹介を行い、研究活動や生活面における変化、今後の進路などについて情報交換を行いました。専門内容は多岐に渡り、研究員同士が刺激を受ける場となりました。

意見交換や情報交換の時間を長めに設け、質問や意見が行き交う会となりました。グローバルリーダーシップ研究所では、今後も半年に一度を目途に交流会を開催する予定です。

（参考）
女性研究者のための研究継続奨励型「特別研究員制度」（通称「みがかずば研究員制度」）の創設について
HP:https://www.cf.ocha.ac.jp/igl/j/menu/introduction/d003276.html

文責：内藤章江
（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）
林有維（同 特任アソシエイトフェロー）
本橋直美（企画戦略課 男女共同参画担当 副課長）



冬学期講座報告
（2020年12月12日～2021年3月6日）

1月講座前半「新規事業開発に効く！ イノベーションと企業家活動」（鹿住倫世講師）に8名、後半「SDGs時代の環境への取り組み」（中久保豊彦本学教員）に9名、2月講座「ビジネスと法律」（汐崎浩正講師）に9名参加でした。

年明けのこのシーズンは例年参加者が少ないのですが、オンラインのおかげで受講が叶ったという方が多く、もっけの幸いでした。年末のトライアル12月講座「ビジネスパーソンの教養：美術鑑賞」（林有維担当）も11名参加でした。

ネットワーキングランチも2月に「ソーシャルビジネスの可能性」（菅谷聡子氏）、3月に塾生企画「ココロに癒やしのひとしずく。ハートフルおしゃべり会のキキメと余韻」（櫻井美奈子氏）と開催し、塾生以外の方も多くご参加下さいました。

2021年度の徽音塾：
リニューアルと5月～9月の講座のご案内

2021年度、徽音塾は「お茶大女性リーダー育成塾：徽音塾」としてリニューアルを果たします。

前半の5月には従来から人気の「女性のエンパワーメントとリーダーシップ講座」を4科目、6月から9月には「お茶大プロフェッショナルレクチャー」を6科目開講します。

前者は女性の可能性を開花させ、リーダーシップを躊躇なく発揮することを促し、応援する講座、後者はリーダーシップを発揮するための深い知識と高度な教養を本学教員から学ぶ講座です。

より多くの女性の一助となるべく、新たな年度も邁進して参ります。

2021年度 徽音塾（5月～9月） 開講予定表

	開講日	講師	タイトル	申込締切	入金締切
5月	8日（土）	宮里 暁美	E01「子どもとは何か ～子どもと過ごし関わる中で問い続ける～」	4/30（金）	5/6（木）
	15日（土）	横田 響子	E02「キャリアの選択肢を広げる、付加価値を生む女性たちの仕事」	5/10（月）	5/13（木）
	22日（日）	高田 朝子	E03「貴女のリーダーシップを磨く よりよいキャリアを積むために」	5/17（月）	5/20（木）
	29日（土）	吉田 友子	E04「多様性対応コミュニケーション」	5/24（月）	5/27（木）
6月	12日（土）	三宅 秀彦 神原 容子	P05「ゲノム医療時代の健康管理と遺伝カウンセリング」	6/7（月）	6/10（木）
	26日（土）	藤原 葉子	P06「植物油と健康～氾濫する食情報に流されないために～」	6/21（月）	6/24（木）
7月	3日（土）	元岡 展久	P07「すまいのデザインと社会」	6/28（月）	7/1（木）
	10日（土）	小林 誠	P08「都市の記憶、都市の想像力」	7/5（月）	7/8（木）
9月	4日（土）	小坂 圭太	P09「近代精神の器としてのピアノ」	8/30（月）	9/2（木）
	11日（土）	水村（久埜） 真由美	P10「ダンスの魅力を科学する～運動を楽しむと健康になる～」	9/6（月）	9/9（木）

※「E」…女性のエンパワーメントとリーダーシップ講座　「P」…お茶大プロフェッショナルレクチャー

※1科目（1日）からご受講いただけます。

文責：森暁子
（グローバルリーダーシップ研究所特任 アソシエイトフェロー）

2021年度グローバルリーダーシップ研究所関連授業

グローバルリーダーシップ研究所では、2021年度前期に以下の授業の開講を予定しています。学生の皆さんの積極的な受講を歓迎します。
＊入学年度によって科目コードが異なりますのでご注意ください。
＊CDP：キャリアデザインプログラム（CDP）基幹科目の授業です。

授業名	開講時期	内容
お茶の水女子大学論 ［21A0019］（学部） （CDP）	水曜 9・10限	お茶大の歴史を学び、お茶大の今を知り、自らの未来を描くための授業です。以下4つの要素から成り立ちます。 ・学長によるオリエンテーション ・お茶大の歴史、お茶大生の特徴、学内の各種プログラムを知る ・お茶大卒業生のロールモデルから学ぶ ・お茶大講演会で学ぶ
グローバル・リーダーシップ実習Ⅰ［21B2099］（学部）	前期不定期	既修のキャリアデザインプログラムの基幹科目で身につけた、プレゼンテーション、コミュニケーショ ンといったスキルを応用しながら研修に臨み、新た に学ぶ「ソフトスキル」の理念に基づくリーダー シップ・スキルを習得することを目的とします。さ らにイタリア・パヴィア大学の女子カレッジ、コッ レージョ・ヌォーヴォ学生との交流活動を通して国際的な女子学生ネットワークを構築し、グローバル 女性リーダーとしての第一歩を踏み出すことをめざします。
パーソナル・ブランディング ［21N0091］（学部） （CDP）	火曜 7・8限	「人の記憶に残る自己発信」を可能にする「パーソナル・ブランディング」について学びます。実践する場を通じて「個」を磨き、コミュニケーション力 の向上をはかります。
リーダーシップ国際演習Ⅰ ［21S0258］（大学院）	火曜5・6限	特別招聘教授Cho Sung-Nam先生による授業です。リーダーシップとジェンダーについて学び、理論的分析と実践的知識の両方を理解することを目的としています。講師とゲストスピーカー、チームプロ ジェクトによる講義に基づきリーダーシップとジェンダーに関する現在のグローバルな問題の多面的な側面を理解し、問題点を分析して解決する方法を学びます。
未来起点ゼミⅠ ［21N0220］ ・Ⅲ ［21N0222］（学部）／ 未来起点研究Ⅰ ［21S0270］ ・Ⅲ ［21S0272］（大学院）	Ⅰ：木曜9・10限 Ⅲ：前期不定期	株式会社ブリヂストンと連携して、未来を創る人材を育成するプログラムです。変化の時代、10年後、20年後の世界と日本社会はどう変化しているのか？その変化の下、私たちはどの様な未来を創るのかを学生自身が考えるゼミです。学外の様々な方たちと対話し、未来を描き、私達が創る未来を提言し、それに向けたアプローチを発表していただきます。多様な方々との対話、自身との対話、提言策定のためのワーク、発表企画力、表現力、リーダーシップが身につきます。

研究所から

2020年度は新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、本研究所では海外派遣事業や講師の受け入れなど多くの業務が中止となりました。しかし、オンラインを利用して、授業をはじめ、セミナーやシンポジウムをよりグローバルに展開することができた年ともなりました。
2021年度は事態が収束し、更に積極的な活動ができるようになることを願っています。

【発行元】　国立大学法人お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所
〒112-8610　東京都文京区大塚2-1-1 人間文化創成科学研究科棟506室
Tel/Fax: 03(5978)5520　　E-mail: info-leader@cc.ocha.ac.jp
URL: http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/